米国バージニア州での研究留学と生活

Fralin Biomedical Research Institute
高橋　謙也
東京大学大学院総合文化研究科身体運動科学研究室

私は2025年4月より、米国バージニア州にあるFralin Biomedical Research InstituteのZhen Yan先生の研究室にて研究活動を行っています。本研究所はバージニア工科大学（通称：バージニアテック）に属しており、メインキャンパスのあるブラックスバーグから車で約40分のロアノーク市に位置しています。名前から分かるように、この研究所は、主に生物医学に関係する研究活動を担う拠点となっています。

留学のきっかけは、前職が任期制であったため、任期満了前に次のポジションを模索する中で学会に参加したことでした。その際、Zhen Yan先生が日本人研究者を受け入れることに関心を持っておられることを知り、本機会につながりました。これは、これまで同研究室で活躍されてきた日本人研究者の方々の貢献と信頼の積み重ねによるものと考えています。

私の研究分野は運動生理学であり、これまで定期的な運動が持久的運動能力を向上させる分子・生理学的メカニズムや、疾患の予防および改善に及ぼす効果について研究してきました。



ロアノークの象徴：ミルマウンテンスター

留学先においても同様のテーマを扱っていますが、遺伝子改変技術を用いた新規モデルの作成により、運動が効果的であるメカニズムについて解明を目指しています。私は主に骨格筋を対象として研究を進めていますが、研究室には脳・神経系や疾患・加齢モデルを対象とする研究者も在籍しており、通常の研究室と比較して研究対象が多種多様であると感じています。そのため、進捗報告や論文抄読では自分の専門外の内容に触れることも多く苦労する場面もありますが、その分、新たな視点や知識を得る貴重な機会となっています。

ロアノークは大都市ではありませんが、生活に必要なものは概ね揃っています。一方で、車がない場合にはやや不便に感じることもあります。また、日本関係の手続きなどでワシントンD.C.の日本大使館まで行く必要がある場合、片道約4時間を要するため、負担に感じることもあります。その一方で、市内に空港があり、日本からも乗り換え1回で比較的容易にアクセスできる点は利便性が高いと感じています。

渡米当初は日本人がほとんどいない地域だと考えていましたが、生活を始めて1年ほど経過した頃、日本語で会話をしながら歩いていた際に、同じアパートに住む日本人の方と偶然出会いました。話を伺うと、近隣には日本企業もあり、地域には約20世帯の日本人が暮らしているとのことでした。中には永住権を取得し、長期的に生活されている方もいらっしゃいます。

このように、本留学を通じて研究面および生活面の双方において多くの学びと刺激を得ています。今後は、本経験を基盤として研究をさらに発展させるとともに、将来的には得られた知見を日本の研究分野へ還元していきたいと考えています。

最後になりましたが、ご支援いただいた上原記念生命科学財団の皆様には心より感謝申し上げます。